

不登校生徒の自立と進路を支援

NPO法人NIWA教育相談室 代表 丹羽 豊さん

—不登校児童・生徒をめぐる現状は。

不登校になってしまう原因はさまざま。友達関係の崩壊、学力不振や親子関係の不和など、原因は複雑に絡み合っています。子どもは「学校に行っていない」という自分に負い目を感じていて、傷ついています。残念ながら、不登校の兆候が出始めた時期に、親が誤った対応をしてしまうのです。

—どのような対応が理想的なのか。

まずは普通の会話を心掛けること。「おはよう、体調どう？」「何か食べる？」など何でもいいのです。もちろん学校や登校の話はタブー。これは「学校に行っていないあなたを私は認めているよ」という親の意思表示です。でもこれがなかなかできない。たいていは「今日は行くの？行かないの？」と問い詰めてしまう。心配ですから当然ですよね。「つらいなら学校を休んでいいよ」と親は言えない。不登校の現実を受け止め、「この子の味方になれるのは私なんだ」という自覚が大切です。居心地の良い場所、癒やされる場所が不登校の子どもには必要なのです。

—親がしっかり寄り添うようになる。

子どもが「お母さんは僕の気持ちを分かってくれている」と確信すれば、悩みや将来への不安を話し始めるようになります。そうなれば、これからの進路（復学・転校）についても親子の会話が成立します。今は通信制の高校なども認知されている時代です。中高でつまずいても大学や専門学校で道が開けた子はたくさんいるのですから。

—昨年印象に残った相談は。

中学校でのいじめがきっかけで対人関係が壊れてしまい、高校も進学できず、親以外とはしゃべらない子がいました。最初は保護者との相談でしたが、メールで自宅学習のアドバイスを本人に送っているうちに「丹羽先生なら」と会ってくれるようになりました。その半年後には通信制高校に入学し、今では何人かのクラスメートと会話や勉強をし、大学へ進学したいとも言っています。うれしいですね。

—最後に2014年の抱負を。

不登校や昼夜逆転している子を集めて「生活改善合宿」を企画したいですね。キャンプや海に行ったりして、「夜のパソコンやゲームより面白いものがあるぞ！」と伝えたい。実は不登校の子ほど、人（先生や同級生）とのつながりを求め、声を掛ければ意外とイベントに参加してくれるんですよ。

NPO法人NIWA教育相談室

大阪市天王寺区東高津町9-23 ロコモチノキビル5階
電話(0120)113764

京都府内の公立小学校で13年間教壇に立った代表の丹羽豊さんが教育総合相談室を開設。主に不登校や学校を中退した子どもとその保護者に対し教育、進路の相談に応じている。2012年にNPO法人認可。これまでに教育相談を行った不登校生徒・保護者の数は延べ1000人は優に超える。

■ <http://niwa-soudan.com>



不登校生徒との海釣りイベント(淡路島)